

155 「千葉県を歩いた記憶」

2013年5月から2018年11月までの5年半の間、千葉県内各地を歩いた。

“健康のため”ということで歩き始めたが、家の周辺を歩くだけでは物足りなくなった。家の周りにもいくつか異なるルートはあるが、何度も歩いているうちに飽きてしまった。

歩けるだけ歩き、交通機関を使って家に戻る。そして、また次の機会にその先を歩くようにすれば遠くまで行ける。同じ道、同じ町でも車で行くのとは違い、変化があり面白そうだ。

当時、既に60歳半ばなので体力の不安がある。家の周辺を歩くのはせいぜい5kmくらいだから問題ないが、今回そうはいかない。健康目的だから距離に拘ることはないが、それでも一日どれくらい歩けるのかは気になるところだ。調子よく歩いていても急に体調が悪くなり、歩き続けられなくなることもある。実際にそういう経験も何度かあった。そんな時でも何とか自力で家に戻れるように、必ず公共交通機関で帰れるルートを選ぶ。もしバス停や鉄道駅までたどり着けなければ、誰かの車のお世話にならざるを得ない。

歩いて気付いたことは、靴の大切さである。足で歩くのだから当然だが、足に合った歩きやすい靴が重要ということだ。最初のころは何度か“肉刺”を作って、足を引きずりながら帰ったことがあった。

結局やらなかったが、痛みをこらえて歩くより、途中自分で肉刺の治療をした方が良かったと思う。

景色や町を楽しみながら歩くのだから、暑くなく寒くない季節、天気の良い日を選んで歩く。そのようなことで始めた“歩き”の記録を振り返ってみたい。以下の表は1～8回のデータである。

第1回 鴨川 【合計69km】		
1	青葉台→馬来田	13km
2	馬来田→久留里	10km
3	久留里→上総亀山	11km
4	上総亀山→白岩館	17km
5	白岩館→安房天津	18km
第2回 九十九里海岸 【合計46km】		
1	青葉台→刑部	18km
2	刑部→茂原	13km
3	茂原→白子車庫	15km
第3回 勝浦 【合計64km】		
1	青葉台→牛久	17km
2	牛久→養老溪谷	18km
3	養老溪谷→総元	14km
4	総元→勝浦	15km
第4回 銚子 【合計96km】		
1	青葉台→潤井戸	16km
2	潤井戸→大網	17km
3	大網→成東	15km
4	成東→八日市場	16km
5	八日市場→倉橋	16km
6	倉橋→銚子	16km

第5回 館山 【合計76km】		
1	青葉台→木更津	19km
2	木更津→佐貫町	16km
3	佐貫町→浜金谷	16km
4	浜金谷→岩井	11km
5	岩井→館山	14km
第6回 野田 【合計105km】		
1	青葉台→浜野	16km
2	浜野→稲毛	13km
3	稲毛→南船橋	13km
4	南船橋→新鎌ヶ谷	17km
5	新鎌ヶ谷→梅郷	22km
6	梅郷→関宿	24km
第7回 佐原 【合計83km】		
1	青葉台→浜野	15km
2	浜野→四街道	13km
3	四街道→酒々井	12km
4	酒々井→久住	15km
5	久住→下総神崎	14km
6	下総神崎→佐原	14km
第8回 大原 【合計50km】		
1	青葉台→上総牛久	14km
2	上総牛久→大多喜	19km
3	大多喜→大原	17km

私の住む千葉県市原市は、房総半島の中央部で東京湾に面している。ここを起点に歩き始めると、南に向かっても、東に向かっても太平洋、北に進めば利根川が横たわり、必ず海か川にぶつかる。

下の地図は歩いたルートを示したもので、最終到達地は大きな赤○、途中の小さな各色の○は区切りの地点を示している。



第1回目の初日は、鴨川通りを南に向かって歩き始め、バス路線に沿って進んだ。景色を楽しみながら、道端に咲いている花の写真などを撮りながらゆっくりと歩く。

途中、昼食時刻になれば、適当な店に入り休憩を兼ねて食事をする。結局、この日は13km歩いてJR久留里線の馬来田駅に到着、ここで終了とした。

2時間半歩いて13km、時速5.2kmなので歩く速度はそれほど遅くない。

こんな調子で、次の回に馬来田から久留里まで歩いたところで、目的地を「安房鴨川」に決めた。

久留里から上総亀山間の11kmは、距離の割に大変だった。久留里線で一駅の区間だが、アップダウンが多く、国道465号と県道24号が交わる「名殿」^{などの}交差点で、どちらに進めば良いか迷ってしまった。国道465号を進めば七里川温泉方面、県道24号を行けば鴨川方面だが、持っていた地図ではどちらに進めばよいか判断が付かない。道を訊こうにも全く人の気配はなく、もしここで道を誤れば、自力で帰ることは難しくなると思い焦った。

久留里線の亀山駅はまだ遠く、途中バス路線も全くない道路である。

恥ずかしながら、この時偶然携帯の地図で検索すればいいことに気づき、七里川温泉方面に行けばよいことが分かり事なきを得た。今では、携帯の地図アプリは必携で使い慣れているが、その当時はそんなことも気付かなかったのである。

家に帰った翌日、疲れが残ってなかったので、朝食前に家の付近を歩いた。朝の清々しい空気の中、初めは調子よく歩いていたが、1時間半ほど歩いたところで、少し速足だったせいか急に“フラット”きた。冷や汗のような汗が噴き出し気分が悪くなった。朝食を摂らずに歩いたせいか？エネルギー切れという感じ、初めてのことで驚いた。

後でわかったのだが、これは「低血糖」だと思われる。

食事をせずに歩くと、このようになる可能性があることを知った貴重な経験だった。

上総亀山から目的地の鴨川までは25kmほどの距離である。この区間をどうするか迷った。これまでの最長距離となる25kmを1日で歩けるだろうか？悩んだ結果、無理せず2回に分けることにした、無理は禁物だ。

上総亀山は君津市のはずれに位置し、そこから鴨川に至る区間で、中間地点に適当な駅もバス停もなく、家に戻ることはできない。2回に分けて歩くとなると、どこか中間地点で泊まらなければならない。

調べたところ君津市から鴨川市に入ったところに「白岩館」という鄙びた温泉宿があることがわかった。ちょうどいい、歩き疲れた体を温泉で癒すことができる。2回に分けたため、歩く距離は12kmで比較的楽になった。

歩き始めると、君津市が運営するコミュニティバスの停留所があったが、昨年9月から運休になっていた。高台に位置する黄和田畑という地区に入り「木造十三仏像」を見て、ちょうど12時、七里川温泉の宿で昼食。紅葉が始まった、初秋の七里川溪谷の景色を楽しみながらゆっくりと歩いた。

上総亀山→白岩館の距離はほぼ12kmだが、記録が17kmとなっているのは理由がある。七里川溪谷を歩いている途中、どこかで休憩するつもりだったが、適当な場所がなくそのまま宿まで歩いてしまった。結局、宿に早く着き過ぎてしまい、時間を持て余していたら、宿の主人が2kmほど先に「不動の滝」があるから観てきてはどうかと勧めてくれた。

明日見ることもできるが、せっかくの勧めなので行ってみることにした。ところが歩いてみると結構遠かったのである。25分ほど歩いたところで訊くと、“不動の滝はここからまだ1kmはありますよ”

とのこと。ここからさらに10分以上歩くのでは疲れてしまう。明日のことを考えて、ここで引き返した方がいい。結局不動の滝は観ずに帰ってきたのである。17kmはこの往復距離を足したものだ。

翌日、宿を出発して35分、不動の滝の入口に着いた。そこから、アップダウンのきつい山道に入り、1.2kmほど進むとやっと滝に着いた。不動の滝は規模こそ小さいが、均整の取れた美しい滝で、観ることができて何か得した感じ。滝に至る道は狭く、車は入って行くことはできない。車で来るとこの距離を歩くのは億劫だろう。

本道に戻りしばらく歩き、四方木峠を過ぎると日蓮宗の大本山「清澄寺」に着いた。高台の展望台に上ると、波の立つ太平洋が見える。ここまで来れば目的地はそう遠くない。宿のおばさんが作ってくれたおにぎりと卵焼きを食べ、再び歩き始める。

見通しの良い高所から、美しい景色を眺めながら、徐々に海に向かう長い下り坂を進んでいく。やがて市街地に入りJR外房線「安房天津」駅に着いた。安房鴨川を目指して歩いてきたが、これ以上歩く気力はなく、ここ安房天津を最終地点とした。

実際に歩いてみて、目的地に到着した達成感と充実感は何事にも代えがたいものだ。それと、これからの“歩き”の参考になる多くの体験ができたことは本当に良かった。

このようにして私の住む市原から ①安房鴨川[69km] ②九十九里海岸[46km] ③勝浦[64km] ④銚子[96km] ⑤館山[76km] ⑥野田[105km] ⑦佐原[83km] ⑧大原[50km] と歩いた。

1日で歩いた最長距離は24km、歩いた距離の合計は“539km”に達した。この距離で、東北に向かえば「盛岡市」、北陸に向かえば「金沢市」、関西方面に向かえば「奈良市」に至る距離である。

今も記憶に残っていることをいくつか挙げてみよう。

① 「第4回 銚子 (1) 青葉台→潤井戸」

最も辛かった区間、その時の痛さを今でも思い出す。

「歩いている道路は路線バスが通っていて、時々バス停があった。間もなく神崎の交差点に着き、ここから目的地まではあと2~3kmだ。バス停で運行時刻を見ると、バスは日に数本しか通ってなくて不安になった。神崎交差点を過ぎ潤井戸方面を目指す、バス停が見つからなくなった。どうやらバス路線から外れてしまったようだ。

目的の潤井戸地区に入り、あとはバスで帰って来ればよいと考えていたが、まず本数が少ないことと特に日曜日は全面運休が多いことに焦った。日曜日の運行本数がこれほどまでに少ないとは思ってもいなかった。バス会社からすれば乗客の少ない日曜日は運休も当然なのだ。

ここまで既に15kmほどを歩き、疲れが出てきたところである。これは下手するとバスでJR八幡宿駅または浜野駅まで戻れない可能性があると思い始めた時、「神崎入口」というバス停を見つけた。このバス停からは浜野駅東口、塩田営業所、ちはら台駅行きが出ている。平日なら塩田営業所行きはこの時点で5分後の13:30分発があるが、土日は14:25分発で1時間後である。

それ以外の方面は便数が少なくて全くだめなのだ。何も無いところで1時間も待つのはいやなので、神崎入口から浜野方面に向けて歩くことにした。

1 kmほど歩くと草刈地区に入り、五叉路があり「房の駅」が見つかった。時刻は13:40分、この辺りまで来ると足にはマメができて痛い。

房の駅の少し手前にバス停があり、塩田営業所行きが14:28分にあることを確認した。

房の駅で一休みして昼食をとり14:20分スタート。ここで、さっきのバス停に戻れば良かったのだが、次のバス停まで歩こうと思ったのが間違いだった。

次のバス停はそれほど遠くなく、せいぜい5分ほど歩けばたどり着けると思っていた。しかし、いざ歩き始めてみるといくら歩いてもバス停は遠く、、、いや実はこの道路にはバス停はなかったのだ。

バスの時刻は迫ってくるし、最後はバス停が見えるまで足の痛さを堪えて走った。しかし、バス路線は五叉路からは違う方向だったようだ。結局痛い足を引き摺りながら、古市場町から高速道路の下をくぐりJR浜野駅まで歩いてしまった。古市場あたりにくるとマメが痛くてもう限界、これまでで最も辛い歩きになった。チョットした判断ミスで「神崎入口」から6 kmも余計に歩く羽目になってしまった。なぜあの時戻らなかったのか、本当に悔やまれる。

家に着いて靴下を脱ぐと、右足に4つ左足に2つ大きな血マメができていた。靴の大きさ、靴下の選び方、靴紐を結ぶ強さなど、長距離を歩くときはもっと足元に注意を払わなければいけないと実感した。

今日は目的地まで16 km、それ以外に6 km、合計22 kmを歩いて疲労困憊した。これを考えると、陸上競技の50 km競歩とは一体どれほど過酷なのだろう？想像もできない。」

②「第5回 館山 (5)岩井→館山」

この区間は心配事があった。それは厄介なトンネルがあることだ。歩道のあるトンネルなら全く問題はないのだが、事前の調査では国道127号を行くと岩井～富浦の間に、歩道のない薄暗く距離の長いトンネルが2ヶ所もある。何かよい方法はないかと地図を見ていると、岩井駅から少し行ったところから山側に細い道で富浦に抜ける道路があった。しかしこの道路にも200 mほどの長さのトンネルがある。国道ではないのでさらに暗く狭いことは間違いない。いろいろ迷った末、山越えのルートに行くことにした。トンネルが越えられるかどうかは行ってからのことだ。

「JR岩井駅から歩き始めて30分、トンネル入り口に着いた。

予想していた以上に狭くて暗い。全く照明はなく勿論歩道はない。車は4,5分に1台来るか来ないかだから、運が良ければ全く車が来ない間に通り抜けることはできる。しかし、それは確率と運の問題だ。こんなトンネルをまさか歩いて通る人がいるなんて思わないだろうから、運転者の不注意で轢かれてしまうかもしれない。

迷っていても埒があかないので、意を決してトンネルに入ろうとした瞬間、向うから1台車が入ってきた。こちら側からも入ろうとする車が1台来て、向うからの車が通過するのを待っている。

先入り優先で、トンネル内は2台通ることはできない。向かってくる車を観ているとやはり怖い。

向うから来た車が通り去って、こちら側で待っている車に手を挙げたら止まってくれた。

「歩いて通れないのでトンネルの向こうまで乗せていただけませんか？」というと、快く乗せてくれた。70歳くらいのおじさんと、車の中で事情を説明した。館山まで乗せてもいいよと言われたが、有難いけれど目的が違うので、とお礼を言いトンネルを出たところで下してもらった。

できるだけ自力で進みたいが、危険を冒してまですることでもないなので今回は止むおえないこととした。



③ 「第6回 野田 (6) 梅郷→関宿」

この区間は最も距離が長く24kmである。事前調査が充分でなかったため、結局目的地を目の前にして時間切れ、引き返さざるを得なくなってしまった。そればかりか、帰りのバスに間に合うかどうかの瀬戸際で本当に焦った。

「関宿は江戸川と利根川に挟まれ、この先どんどん狭くなり、二筋の川が合流するところで千葉県が終わりとなる。

15時40分、目的ポイント「境大橋まで3km」の表示があった。バス停（不動前）で時刻を確認すると、何と！最終バスが16時19分発になっている。途中で見た時刻表ではかなり本数があったが、関宿の中心部を過ぎてしまうと本数が激減。



迂闊だった！帰りのバスに乗る地点の発車時刻はもっと早いので、16時10分にはバス停に到着していなければならない。残り3kmであと30分しかない！

疲れはほぼ限界に達していたが、そんなこと言っていられない。最終バスに乗れなければ、誰かの車の世話にならざるを得ない。事前に調べたところタクシーは呼べないことが分かっている。

ここからは、疲れていても速足で歩くしかない。もう景色を楽しんでいる余裕はなくなった。携帯のGPSで道路地図を見ながら時間との競争だ。

いよいよ残り時間がなくなって、最後の1kmは疲れた体に鞭打って走った。しかし、さっきのバス停（不動前）を過ぎてからずっとバス停が見当たらなくなりかなり不安。橋の近くにきつとバス停はあると信じてとにかく走った。

関宿博物館入口の交差点から道路は大きく右に曲がり、上り坂になる辺りでとうとう残り時間がなくなり、境大橋への到達は難しいことが明らかになった。ここまで頑張っ歩いて来て、県境の橋を渡ることが叶わないのはいかにも残念だ。でも仕方ない、橋まであと200mほどの地点で写真を撮りここを終着地点とした。向う



から自転車で来た若者にバス停を訊くと、歩道橋の手前に朝日バスの停留所があるという。ここから1 kmはないだろうとのこと。すぐにUターンしてバス停を探す。

疲れはピークに達しているが、時間がないので走るしかない。息が上がり喉は乾く、汗が噴き出る。博物館入口を過ぎ、県道17号と県道26号の分岐点まで来たが、歩道橋らしきものは見当たらない。さらに来た道を戻るが、この先不動前までバス停がないことはわかっている。

もしや違う道路ではないかと、再びさっきの分岐点まで戻り26号に入ると、やっとあった！野田市コミュニティバス「まめバス」のバス停だった。時刻表をみると、最終16時24分発の関宿中央ターミナル行きになっている。これではだめだと、先を見ると50mほどの距離に朝日バスのバス停があった。着いたのは16時13分、恐る恐る時刻表を見ると、東武野田線川間駅行き最終バスは16時17分発、何とか間に合った！関宿町には鉄道はなく公共交通はバスしかないはずだが、最終がこの時刻では困るのではないだろうか。（後日調べると、関宿中央ターミナルから川間行きは遅くまで運行されていた）」

④「第7回 佐原 (6)下総神崎→佐原」

千葉県内ばかり歩いて来たが、^{しもうきこうざき}下総神崎（香取市）から利根川にかかる神崎大橋を渡り茨城県（稲敷市）に入った。

「神崎大橋に到着。利根川に懸かる長大な橋。この橋を渡って茨城県に入ってみる。道路の脇に独立して立派な歩道がついている。

渡り始めるとすぐに「渡り切るのに770歩」の表示。一步の歩幅が約70cmだから540mほどの長さということになる。橋の中央から兩岸を見ると本当に大きな川ということがわかる。

川は豊かな水を湛え水面は微風でわずかに揺れている。完全に渡り切るのに7~8分もかかった。これで瞬間だけけど茨城県に入った。茨城県側の道に行くこともできるが、再び橋を渡り千葉県側に戻る。



神崎大橋からさらに東8.7 kmほど行くと、水郷大橋がある。ここでも橋を渡って茨城県に入った。

水郷大橋の袂に到着。神崎大橋からここまで歩いて、途中おじいさん一人、サイクリスト三人と会っただけだった。

「水郷大橋を渡って茨城県側にいく。当然のことに橋の間には県境（茨城県／稲敷市）がある。橋を渡り切って茨城県側に入っても道路はずっと先まで続いていて、かなりの距離を歩くことになるので、川沿いの歩道に降りて橋の下を通り反対側に渡る。この水郷大橋には道路の両側に二本



の歩道が付いていて、反対側の歩道で千葉県側に戻ってきた。」

「第4回 銚子 (6)倉橋→銚子」で茨城県境にたどり着いた
「どンドン歩いていくと銚子大橋の交差点に着いた。

ここを右折すれば銚子駅に着くが、せっかくここまで来たのだから左折して銚子大橋の方向に行ってみる。

銚子大橋は利根川の最も下流に架かる橋で、長さは有に1kmを超える。この橋を渡ると茨城県だ。これまで千葉県内をずいぶん歩いたが、県境までたどり着いたのは初めてのことだ。

素晴らしい眺めに満足して、橋の半分ほどの所まで引き返す。ここから先ほどの銚子大橋の交差点を通過し、最終目的地のJR銚子駅には14時ちょうどに着いた。」

(2024. 06. 30)

